

成果指標				
成果指標	各種事業の参加者人員を指標とする。			
指標設定の考え方	障害者理解と啓発を深めるため、事業に参加した障害者やその家族、地域住民の人員を指標とする。			
区分年度	25年度	26年度	27年度	目標28年度
目標	300	300	300	300
実績	277	233	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	3	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	4	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	障害者理解を深めるために「市民ふれあいのつどい」を10月18日に伊予市市民体育館で開催した。昨年度好評だった障害者理解を深めるクイズのほか、小学校児童によるアトラクションや参加者全員で楽しめる競技を行い、障害者理解を深めることができた。民生児童委員会の全体会議及び障害医者部会において担当者を講師として派遣して「伊予市の障害者福祉」についての研修会を開催し、障害者の支援を行う方たちに対して伊予市の現状等の理解促進を図った。今後は、そのほかにも広報活動など、多角的に障害者理解を深めていく必要がある。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	4	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	当初予定にはなかった団体等からの要望に柔軟に対応し、車椅子アスリートによる障害者スポーツの啓発や、民生児童委員の障害者福祉研修などを行った。また、市内障害者団体が主催する障害者と一般参加者の交流促進と障害者理解啓発事業をより良いものとするため、関係団体と協力しながら運営を行うことができた。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断する。
意見、課題	

行政評価委員会の答申

外部評価
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

現状のまま継続する。

意見、課題